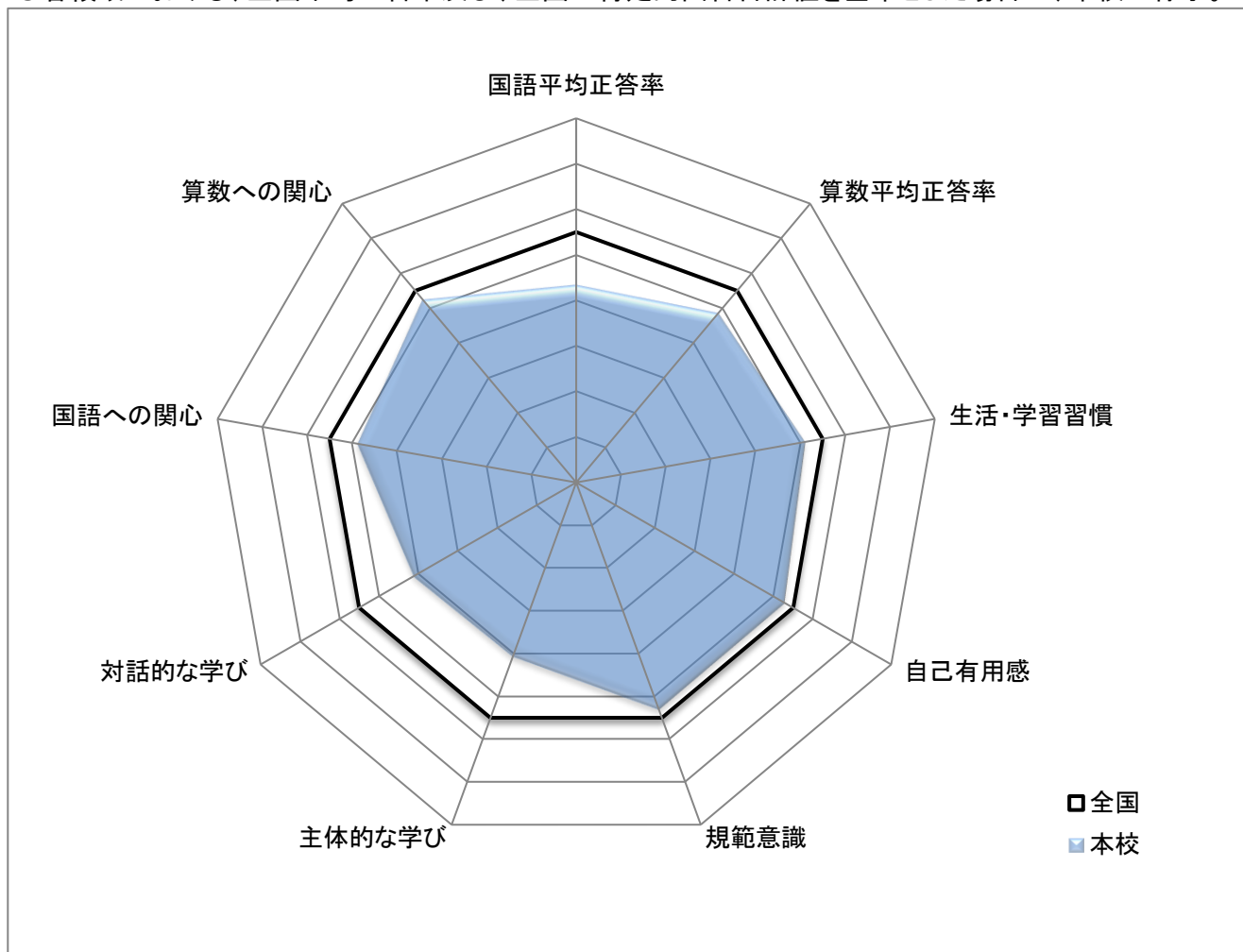


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語・算数への関心・意欲が全国と比較し、下回る結果となった。それに伴い、国語・算数の平均正答率も全国と比較して下回っている。
 国語では、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしながらかき、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることに課題が見られた。また、漢字では、語句の意味を理解しておらず、知っている同音異義語を書いている児童が半数に及んだ。
 算数では、基礎的な四則計算や面積の求め方などの技能は身に付いているものの、説明を言葉や数を用いて記述することに課題が見られた。

《授業改善のポイント》

どの教科でも、児童自らが主体的に課題に関わり、見直しをもって課題解決をし、友達と対話を重ねることで学びを深めていけるような授業を展開することで、学習への興味・関心を高められるようにする。
 国語では、事実と考えを区別しながら、自分の考えの理由を明確にして書くことができるよう指導していく。また、本を読んだり、書いた文章を見直したりする中で、漢字のもつ意味を考えながら、正しい使い方を習得できるよう指導する。
 算数では、繰り返しドリル学習やベーシックドリルを活用することで基礎学力の底上げを図っていく。また、立式できるだけでなく、図形と関連付けて記述したり、示された計算の仕方を基に、成り立つ性質を言葉で表現しようとする態度を育てていく。

《チャートの特徴》

〈全国と本校の平均正答率〉
 国語 全国63.8% 本校49%
 算数 全国66.6% 本校58%
 すべての項目で、全国平均を下回った。特に、「国語の正答率」「対話的な学び」「主体的な学び」の項目については、全国から大きく下回る結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭で学習する習慣が確実に身に付けられるよう、生活時間の見直しを図っていただく。SNSの扱い方や、時間について家庭でルールを決め、きまりを守る意識を育てていく。学校と家庭が同じ視点を持ち、児童を認めることで自尊感情を高め、連携していく。